

おんじゆく

広報

第 9 号

発 行 所
御 宿 町 役 場

印 刷 所
株式会社 阿佐商会
千葉市市場町14
電話千葉(2)4467・3936

写 真
新 装 成 っ た 記 念 碑 全 景



○ 広報は綴っておよみ下さい ○

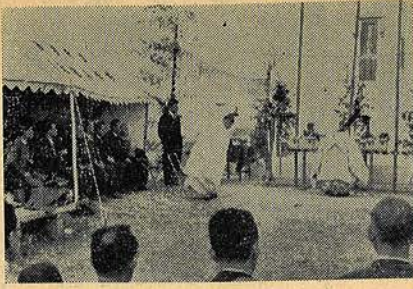
再び白亜の塔に

記念碑竣工なる

終戦以来朽ち果てていた、日西墨交通発祥記念碑が各方面の支援によつて、ここに復旧し、昭和三十三年十一月二十七日、スペイン、メキシコ大使を始め関係各位の参列を得て竣工式が取り行われた。

この日空は青く澄み、やわらかい日差が純白の塔に映えて、その容姿をクツキリと浮び上げ、式典に相応しい美しさであった。

午前十時、自衛隊音楽隊による市中パレードが華やかに行われ、



写真＝修彼の行事

次でスペイン大使、メキシコ代理大使、外務次官代理近藤中南米課長、柴田知事（代読友納副知事）森代議士の祝辞があり、最後に日西墨三国のための方歳三唱をもつて滞りなく式を閉じた。

★ (

れ、沿道をうめた小中学生が旗を振つてこれにこたえる。

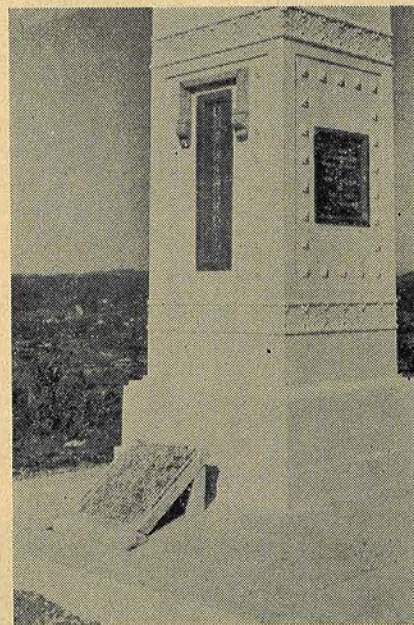
十一時を少し廻ると、スペイン、メキシコ大使、森代議士、国、県関係の来賓が式場に到着日、西、墨、三国の旗が掲げられ、おりからの秋風になびいていかにも国際行事らしい光景である。

十一時三十分、水上委員の開式の辞に続いて、修彼の行事が厳かに取り行われた後、井上委員長の式辞、相原委員の工事報告があつて、感謝状贈呈に移り、設計者金沢庸治氏、工事請負人、式田建設株式会社、委員長よりそれぞれ感謝状が贈呈された。

記念碑の由来

今から三百四十余年前西欧スペイン国が現在のフィリッピン群島を統治していた頃スペイン

政府任命の総督オリサバ伯爵、ドン・ロドリゴデ・ビベロ、イ・ペラスコ氏が任期満ちてメキシコへ帰航の途中乗船サンフランシスコ号の乗組員三百余名と共に後陽成天皇の御治世慶長十四年（西暦千六百九年）陰歴九月四日即ち陽歴九月三十日の夜半に千葉県夷隅郡浪花村（現御宿町）岩和田港海岸で難破上陸した不時の出来事が因縁となつて日本とメキシコ及びスペイン



生せしめ、帰国の船までも提供した。其后、徳川家康と継嗣秀忠がスペインから鉱山技術者派遣の協定をした事、家康のフィリッピンを経由して西欧の文物を輸入せんとする、年来苦心の目的が達せられた事と、京都商人田中勝助、朱屋隆成等二十名ばかりの商人団が総督に同伴してメキシコへ渡航し、日本人最

のである。而して、安政以前約二百年間一時鎖国して外国文明の接触を避けて居た我国が列強との通商協定をなして、国威を保ち国家の安定を得たのは識者が早くから歐洲諸國海外の消息を研究用意してあつたからと断言しても差支えないものと思ひます。

以上の由緒ある史実を尊重し且つ永久にこれを追憶するため当時の衆議院議員森蔵利先生と村長浅野重雄氏の御尽力で地元民を始め、全国同感の士の賛助のもとに、寄付金を募り昭和三年十月一日漂着地点至近地轟台上に日西墨交通

発祥記念碑を建立したものであります。

ン本国との交通が開かれたばかりでなくひいては、ラテン文明諸国との接近を来した事実は、当時国際親善の増進に資する処の世界の一大事績だと信じて居ります。総督一行の遭難の際飢餓を救い、衣類を与え、或は婦女子等は体温を以て漂着者を蘇

初の太平洋横断航海の記録を残した事、総督無事帰国の答礼使節セバスチヤン、ビスカイノ一行が来朝し、東海岸の港湾を測量した事から伊達政宗が支倉六右衛門一行を答礼使節帰国の船に便乗せしめて、スペイン及びローマエ特派した事などの史実は、総て総督漂着から起つたも

然し乍らこの史実を顕彰し永く後世に伝えんとするこの記念碑も、あの熾烈を極めた大東亜戦争に遭遇するや、敵機の目標となる理由で軍の強い取壊命令を受け、或は数十回に及ぶ機銃掃射を受けつつも地元民の熱烈

な碑を愛する精神は遂に之を保護し、国際親交の碑を敢然と守りぬいたものであります。

然し建設以来三十年の星霜を経たる今日加うるに銃撃のためその荒廢甚だしく目を覆うものがあり、民主主義国家として再び世界各国との国交が回復せら

式

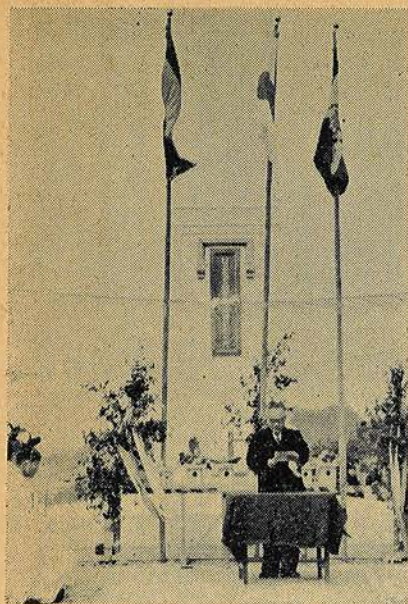
辞

委員長 井上文吉

日西墨三国交通発祥記念碑改修工事竣工を告げ、本日茲に祝賀式を挙げるに当り、スペイン大使、メキシコ大使外務省中南米課長近藤四郎氏、森代議士を初め名士各位には公私共に年

末極めて御多忙の折にも拘わらず遠路僻郷の地に多数御臨場の光栄を辱けのうして、盛大なる落成式を挙げることは洵に欣快に堪えざる処であると共に、深甚なる感謝の意を表する次第

れつつある秋、この記念碑を改修し遭難地点を眼下に望む台地に一段の光彩を放ち、当時の追憶を新たにすることは国際親善のため、真に意義深いものと信じて改修委員会を結成し有志の御賛同を得て改修工事を完了したものであります。
(写真Ⅱ記念碑の中心部)



写真Ⅰ=井上委員長(町長)の式辞

であります。

さてこの記念碑は、各位の御手元に御示し申し上げました趣意書による史実を尊重し、且つ永久に之を追憶するため、当時の衆議院議員偉大なる人格者森轟利先生と本日この式場に列して居ります、旧浪花村長浅野重雄氏等が若かりし頃渾身の努力を傾注し、地元民を始め全国同感の士の賛助のもとに寄附金を募り、昭和三年十月一日スペイン国「サンフランシスコ号」漂着地点轟台鳥山の岬にこの記念碑を建立し、当時の祝賀式には内外朝野の名士多数御参列の下日本国海軍の駆逐艦二艘沖合にあらわれ、空には飛行機よりメッセージを投下して祝意を表された思い出に感無量なものがあ

ります。然しながら世界的史実を顕彰し永く之を後世に伝えんとする記念碑も、敵機の目標となる理由で軍の強い取り壊し命令を受け、或いは機銃掃射を受けつゝも地元民の熱烈なる碑を愛する精神は遂に之を保護し、国際親交の碑を敢然と守りぬいたのであります。然し建設以来三十年の星霜を経た今日、加うるに銃撃のためその荒廢は甚だ

のであります。

しく目を覆うものがあり、民主主義国家として再び世界各国との国交が回復せられつつある秋この記念碑を改修し、思出深き遭難地点を眼下に望む鳥山の岬に一段の光彩を輝やかし、当時の追憶を新たにすることは国際親善のため真に意義深いものと信じ、一日も速く之れが改修の目的を達成しようとした折柄適々前スペイン大使オライより森代議士を通じて記念碑改修賛助金を頂いたので愈々森代議士を柱石とし、相倚り合い地元民亦責任を痛感して之れが改修計画を企てました処、幸い各位にはこの趣旨に御賛同を賜わりて斯くも銀光に輝く立派な記念碑が出来上りました事は、之れ偏に各位の御芳志の恵みに依るもので只々感謝感激の至りであります。

惟うに慶長十四年九月晦日皇紀二二六九年、西歴一六〇九年ドン・ロドリゴ・ピペロがフィリピン諸島長官の任満ちてメキシコに帰る途中其の乗船数次暴風に会いて大破し、統航に堪えざるに至つたので日本に避難しようとして総州沿岸岩和田尻沖合にて難破し、徳川幕府船を給して一行を本国に送還した

回顧すれば乗員の溺死者五十六人に及んだが、翌朝岩礁によじ上り岩和田村民の救助によつて幸いに生還を得たもの三百数十人。当時岩和田の住民は約三百人余り、僅かばかりの田畑を耕作し、かたはら漁業に従事して生活を営んで居つた。この際里人の救援は真に誠実を尽した。女子は其の体温によつて漂人を蘇生せしめ、村民力を合せて食糧被服を給し、宿舎を定めて安住せしめ大多喜の領主根左屋城亦夕霧城とも云ひ、豊かな殿様であり、難攻不落の城であつたと謂う。この領主大久保忠朝に謁し、町重なる待遇を受け、且つ守兵を岩和田に遣はされ、食料に牛や鶏等沢山給されたとす。領主大多喜侯を経て江戸に至り、將軍徳川秀忠侯に謁して共に優遇を受け更に、駿府に行き徳川家康侯に謁して之れ亦厚遇を受けられ由た。彼等は初め家康公を皇帝と思ひ二代將軍秀忠侯を皇太子と思ひしならぬ、次いで西遊して京都其の他の地を巡歴の後帰東したが、幕府より乗船を賜わり、邦人十数名を伴いて無事「濃尾数般」に帰着した。其の翌年普礼使ビ

スカイノ邦人を送つて江戸に至る。日西墨三国の国交之れより開けたのであります。

尚当時の珍らしき遺品も数々あつたが保管上心ならずも不注意のため散失して今は当地の珍重と云う家号の家に保存されて在り、本日岩和田漁業組合の会館に陳列してあります。尚本日御参列下さいました上野博物館業務部長朝比奈理學博士の御調査によつて発見された、スペイン国王帝より御札として、徳川家康公に賜られた時計は有名なもので、家康公が非常に愛重され今は静岡県久能山東照宮に所蔵。今一個はスペインの博物館に陳列してあるだけで稀に見る珍らしいものだそうです。



相 原 委 員

委 員 相 原 誠 三 郎

記念碑改修経過報告

昭和三年以来燦然と輝き、三百二十余年前の史実を、今に伝えられ居りました大理石造りの記念碑も、年古りまして見る影も無い状態と成りました。

心有る人々の熱望も有り、関
工事費 八一〇、四九五円
諸 費 二二三、五五九円

今や外房一帯を觀光方面より觀察する時、日本に於ける第九番目の国定公園に過般指定されました那古の観音山ホトトギス鳴いて御宿サンドスキー記念塔渡りと民謡に歌われて居ります。この藪台より获生徂來が眺めた古歌に、「藪の山の風しに雲晴れて影澄み渡る岩和田の月」と亦沿岸磯つたいには海老、鮑の産地で昔安閑天皇に鮑を奉つたと伝えられ、「弓張の月の宿れる底を見て鳴鹿の海に海女の入るらん」と歌心にふさわしく、海女のカメラも名高く世に知られる様になつて来ました。サンドスキーの辺りよりの遠望は「フランス」の或絶影の勝地によく似ていると画家に謳われて居ります。

係者一同は昭和三十一年十月、日西墨三国交通発祥記念碑改修委員会を結成し、計画を樹てました。スペイン、メキシコ、両国を始め、外務省、千葉県知事等の御賛助と、森衆議院議員の、御指導と御協力の下に、同感の人々の後援に依つて、昭和三十三年九月十日着工、此の度立派に改修出来ました。

文字板は、前のは唐金の浮き彫りでありましたが、今度は小御影石板に、金文字入りに改め、基盤は福田御影石人造研出し、その周囲の犬走りは、那知石入り洗出しコンクリートとして、まわりの柵は取除きました。高さは十六米五〇糎であります。

これにメキシコ、スペイン兩國を始め、千葉県及び御宿町からの補助金と、各方面からの寄附金を以つて賄いました。此の度の設計は、建立当初の設計者であつた、美術学校教授金沢庸治先生が、幸いに御健在であつて、設計監督を無報酬で行つて下さり、深い蘊蓄と熱心によつて、材料が異なるにも拘らず、完全に復元出来ました。

工事その当時の請負人でありました、式田建設株式会社社長式田菊治氏が、前の因縁と、改修の趣旨に賛同して、損得も顧みず引受けられ、炎天も強風も厭わず、社長自ら陣頭の指揮をなし、又専務の式田雄蔵氏や工事部長の三神延雄氏も、率先垂範して、社を挙げての誠実な御尽力に依つて、此の困難な場所の危険な仕事も、事故無く、斯くも美事に仕上がる事が出来たのであります。

昭和三年十月一日 建 立
昭和三十三年九月十日 改修工事着工
昭和三十三年十一月十日 竣 工



(助役)

挨拶

挨拶

駐日スペイン大使

アントニオ・ヴィリヤシエロス

皆さん

茲に光栄ある日本側当局者とメキシコ国代表者及びスペイン大使が、友好裡に参集し、スペイン大使が皆さんに挨拶の言葉をお伝えする。この式は昔を偲ぶ誠に意義ある会合であります。先づ第一に、この会合は殆んど三百年前スペインのフキリツピン総督ドン・ロドリゴ・デビペロ・イ・ベラスコ隊長が、この海岸に難船し、日本の最高当局者に依て懇ろに歓待され且

つ救助された、あの時を偲ばせるのでありますが、かゝる歓待はスペインの朝廷を感動せしめざるを得なかつたのであります。

又この会合は、一つの使命を忠実に果たすため、未だ人に知られて居なかつた、難航海の大海原に乗り出す冒険を雄々しくも企てた、われらの同国人の物語り的な、あの難事業を偲ばせるのであります。一つの使命と申しますのは、当時スペイン人が、



写真=挨拶するスペイン大使

発見したばかりの大陸地が、扉を鎖して居たのを押し開き、これを一世紀前から存在していた文明に導くと云うことであります。

更に又本日この会合は、一言にして云えば、素晴らしい東洋の美しき、親切な特有の「ありかた」を偲ばせるのであります。東洋それは又、地球上の他の国民と密接に接触するために、距離の征服を熱望して居たのであります。

何となれば当時既に為政者は商業的目的許りでなく、国と国とが相互に理解し合ひ、違つた文化を研究し、要するに、新態勢を作るために遠方の国と凡ゆる絆を結ぶ必要を痛感して居たのであります。

他方に於て本日この会合は既に国連を作つた今日の世界に於て、われらが益々了解し合ふため凡ゆる行動、凡ゆる考へを促進して行くことの妥当性を思はしめるのであります。

国連は国と国との間に不幸にして存在する様な問題を平和的に解決する場所でありますが、今尚精神的の眞の平和を達成する方式を見出して居りません。ドン・ロドリゴ・ビペロの日本到着

と、此所で示された懇ろな歓待を記念するこの石碑の復活は恐らく国際的な大きなニュースの消息筋から見れば取るに足らぬ事柄であるでしょう。然し大変に物思はせる事柄であります。

日本、メキシコ、スペインは地理的に離れて居りますが、本日ここに会合しましたのは、互に理解し合ひ、旅の人を懇ろに歓迎し平和的基礎の上に、つながりを広めて行き度いとの希望が今日に始まつたものでない事を表明したいがためであります。

私は世界の文化に貢献して来た三国が、凡ゆる関係を密接にして、私が只今希望に充ちて抱いて居る念願が結晶し将来記念碑となり、制度となり、生産と文化のセンターとなる事をこひ願

う者であります。私は三十余年前千葉県に、この記念碑を建設する相応しい考えを抱かれた人々、就中大河内子爵、村上博士並に私の前任者クアルチン公使を偲ぶ次第であります。同公使は記念碑の建設に貢献せられる様、われらの忘れ難いアルフォンソ十三世陛下を動かした人であります。

そして、其の記念碑を保存して来られた光栄ある日本当局者並に日本の友人に感謝し、且つこの本日の会合に参加されたメキシコ代表者に謝意を表します。そして最後に皆さんと一緒に、われらの国々の間のつながりが日と共に、密接になつて行くために協力する事をお約束致します。

人口授精児は四万

人工授精はその道徳上の疑点から一時イギリスで物議を

かもしましたが、一体この「科学的な受胎法」はどのくらい利用されているのだろうか？

このほどフィラデルフィア

の計画出産協会のエドモンド

・フアリス博士が語つたところによると今日のアメリカの子供のうち、三万人ないし四万人が人工授精により受胎されたものだといふ。

祝

辞

千葉県知事
柴田 等



このことを契機として
当時文化の高かつたラ
テン各国の胸襟を開い
て国交を結び、文物の
交流や人材の往来に努
めた雄揮な姿を思い浮
べて、大きな喜びを禁
じ得ません。

慶長十四年の九月、時のフイ
リツピン群島総督ベラスコ氏が
その任務を終えて本国スペイン
政府の命により帰国の途中不幸
にして嵐に遭遇し乗組員三百余
名と共にこの御宿海岸に漂着し
ました。

その折りこの地方の人から受
けた国境を越えての人間味豊か
な手厚い処遇とその恩義に対す
るスペイン、メキシコ両国の報
恩の気持とが互に結び合つてこ
の記念碑の建立となつたと聞き
及んでおります。遠い昔におい
てこの土地の私達の祖先が不幸
に遭遇した外国の方々には心から
の善意をつくされたことに対し
限らない誇りを感じると共に、

其の後時の流れと共に記念碑
は荒廢しましたが、幸い地元の
方々をはじめ関係者各位の過去
二年間に亘る御努力と、スペイ
ン、メキシコ両国並びに外務省
をはじめ、広く一般の方々の物
心両面に亘る御支援によつて本
日めでたく改修工事落成を迎え
ることの出来ましたことはまご
とに御同慶に堪えません。この
記念碑が我が国と両国の親善の
キズナとなることを祈るもので
あります。

（写真）祝辞を代読する
友納副知事

祝

辞

衆議院議員 森 清

空は碧く澄み海は渺茫と静か
に凜いております。

この佳き日に日西墨通商発祥記
念碑の栄えある再建の式典を挙
行することの出来ましたことを
心からお祝い申し上げます。

省みますと、去る昭和二十七
年の、私にとつて、初めての衆
議院戦立候補にあたり、私は朽
ち果てたこの記念碑を仰ぎみて
から、その再建の陣頭に立つこ
とを、地元の皆様方に「公約」
の一つとしてお誓い致しまし
た。

爾來、足掛け七年、町長をは
じめとし、関係者御一同の心魂
を傾けての成果が見事に結実
し、戦禍に朽ち果てた記念塔が
再び嘗ての偉容をここに再現出
来ましたことは何物にも代え
難い喜びで御座います。

皆さん、日本と外国との初めて
の交易を記念した記念碑は、日
本全国に四ヶ所あります。

その一つは、ポルトガルから
の鉄砲の渡来を記念した。有名
な種ヶ島に建てられたもの、或
は山口県山口市にある、初の布



写真二 森代議士の祝辞

教に渡日した。サウイエル神父
の記念碑等がそれでありませ
それらの記念碑は、皆それぞれ
普く膾炙し日本の文化史にも貴
重な一頁を刻んでいます。然し
私は、それ等のものと比較して
総ゆる観点に立つても、日本文
化発展史上重要な意義を持つも
のは、この岩和田の記念碑であ
ると確信しています。

今から三百四十余年前の慶長
十四年九月三十日、この渺茫と
して静かにたゆとぶ大海原が、
一夜怒濤逆巻き、荒れ狂い一瞬
にして、折柄フイリツピン統治
の大任を果して、母国スペイン
への帰国途路にあつた、ドン・
ロドリゴ卿一行の乗船を併呑大
破せしめ、乗組員三百余名はア
ワヤ海底の藻屑と化さんとした

時、皆様方の御先祖である。岩
和田部落落民一同は、一致協力し
て之を助け、その純朴な真心は
強く、ドン・ロドリゴ卿一行の
心胆に触れ、それが契機となつ
て、日本人のラテン、アメリカ
への初の渡航となり、或はスペ
インを介して初のローマ使節と
して、支倉常長の派遣をみるこ
とが出来た様になつたのです。

言ひ換えれば、皆様方の御先祖

の真心からの親切が日本を国際
場裡に仲間入りさせる第一歩を
印す動機になつたのです。

ですから、私はこの記念碑が他
のそれと比較して、意義があり
重要であると申し上げたのであり
ります。

私達郷土の先考は、この事を極
めて重要視し、今から三十年前
この丘に記念碑を建てることを
思い立ち、あらゆる難関を克服
して、当時の内外朝野の人達を
動かして膨大な経費を捻出して
この立派な塔を建立して後世に
伝へたのであります。

洵に意義ある事業と申し上げぐべ
きであります。

その中心となつたのが、私の父
蘆利であり、地元の浅野重雄氏
であります。

浅野さんは今も尚矍鑠として、
再びこの再建の中心となつて努
力して下さい、本日も、この式
典に参列して居られます。

不肖、私も父の遺志を継ぎ、
この再建の駄尾にふす光栄を得
ましたことを泌みじみ感謝して
いる次第であります。

さて、この記念碑の除幕の式に
あたつてそれを祝して、内外軍
艦が、岩和田沖に偉容を競い、
礼砲を轟かせて式典を祝福した

と聴きますが、本日は、スベ
ン、メキシコの両大使が、御繁
忙の身を遠路を不嫌、御来駕賜

此の度、御宿町長の御尽力と

各方面の御援助に依り、日西墨
交通発祥記念碑の復旧工事が完
成致されました事は、建設当時

関係致しました
私として誠に喜
ばしく、御尽力
の各位に対し衷
心から感謝申し
上げます

浅 野 重 雄

次第であ
ります。

記念碑建設の発
端は関東大震災
の翌年、即ち大
正十三年の夏頃

であつたと思ひます。当時郡内
上野村の出身で報知新聞社の外
事記者をして居られた藤平権一
郎と云う人から浪花村長宛の書
翰が来りまして、貴管内の岩和

り、御祝詞まで頂戴致しました
ことを最後に衷心より感謝申し
上げ祝詞と致します。

田は貴重な史績の土地である。

そして今から三百年前慶長十四
年にスペインのフイリツピン総
督、ドン・ロドリゴがメキシコ
への帰りに台風のため遭難し上
陸した田尻で当時の岩和田住民
は之を救助し、懇切に扱つたの
と当時の徳川幕府も優遇して帰
国せしめた事が、総督やスベ
ン皇帝の感謝するところとな
り、この事か



浅野重雄氏

らラテン民族
との交通の途
が拓かれ、我
国と外国との
貿易が公然と
行はれる事と

なつた貴重な史績の地であるか
ら、記念碑を建てて後世に伝う
べきであるが御意見は如何か、
との事でありました。当時私は
村長就任第二期目で難航した岩
和田築港の工事も漸く完成し、
三十才台の青年村長として駕馬
といへども若さの勢で聊か郷土
開発の念に燃えて居つた頃でし
たから、直ちに地元の漁業組合
長の市東常吉氏と相談致しまし

て藤平氏に來談を求めました。

藤平氏と會つて詳細談を聞きま
すと共に立派な史績で、アダム
スの記念碑や久里浜のペルリス
陸記念等より遙かに古い交通文
化の発祥記念地でありますので
是非記念碑を建てる計画を致し
ましようとして三人で決意致した事
でした。然し、その計画遂行に
は実に難しい時期であつたので
す。何分にも関東一帯に亘り大
震災の痛手は大きく、各界挙げ
て復興に専念して居つた矢先の
事でしたから、此の話があつて
から四年の後に漸く記念碑が建
つ様になつた事は当時の状況を
体験せられた方々には如何にこ
の仕事が難事であつたかは御想
像願へる事と思ひます。それか
ら約二ケ年、県庁、スペイン公
使館、メキシコ公使館等に折衝
を重ね、特にスペイン公使カル
チン氏は來村せられ、遭難現場
の田尻まで当時海岸道も出来ま
せん時でしたから轟かの山道を
辿つて視察せられた程の熱心な
方でしたから、記念碑が出来る
時には本国の皇帝にお願ひして
御親筆で碑文を書いて頂きまし
ようと約束せられた程でありま
した。そんな次第で折衝は続け
ましたが、中々涉々しく運びま

せんので遂に、森代議士(蘆利
氏)に懇願致しました処早速引
受けて下さいまして、これ程の
立派な仕事であつたら何でもつ
と早く己の処に相談に來なかつ
たかと却てお小言を頂戴して汗
顔した次第でした。私としては
当時東京の大会社は震災の大損
害を受け、一流の会社でさへ二
階建位のバラックで事務を執つ
て居つた際でしたから、懇意の
間柄でも此の話を持ち込む事は
田舎の村長は世間知らずだと思
はれはせぬかと遠慮して差控へ
て居つたのでしたが、安ずるよ
り産むが易いとの諺の通り、森
氏が御引受け下さつたので急デ
ンポで仕事が進展致しました。

一世の大事業家として認められ
た森氏の事ですから政界、実業
界、官界の各方面に亘り交渉を
開始し、日西墨交通発祥記念碑
建設会を結成し、会長に前スベ
イン公使伯爵、広沢金次郎氏を
工事委員長に、千葉県知事、福
永尊介氏を、そして一番難局に
当る会計委員長を御自身で担任
せられ、まだ寄附金の目鼻も付
かぬのに森氏の突貫戦術で設計
を美術学校教授の金沢庸治氏に
依頼して、地上高サ五十三尺、
中心に鉄筋コンクリートで白鳳

石を張付け、表面題字は徳川公爵に、左側碑文はスペイン皇帝の御親筆、右側はメキシコ大統領のメツセージを青銅で鑄造して嵌込みするという豪華なもので、加うるに風の強い台地に建てるので風速八〇米に堪へる設計でした。そんな事から森氏の御意見では工事の完全を期する為、清水組に特命で請負はせる積りであつた様でしたが、式田菊治氏から地方の意義ある工事だから損益を無視して完全に施工するから是非共私にやらせて貰ひたいと熱心に申入がありましたので、その熱意に動かされて早速上京致しまして一晩中森氏に懇願して遂に式田氏に施工させる私の案を受諾して貰つたのでした。談話の要旨は、森氏は記念碑の工事の設計書に依ると大した大きな工事ではないが何分にも国際的の建造物で永久保存の目的だから、田舎の若い者に出来るかと言はれましたので、私もたとへ私が記念碑の人柱となつても工事は完全に竣工させてお目に掛けますと申しました処、森氏は君にそれ程の覚悟があるのだつたら宜しい、君に任せると申され私も胸を叩いて諾。こんなエピソードのあ

つた事も想ひ出します。記念碑の定礎式は大正十五年十一月七日に挙行せられ、スペイン公使、カルチン氏が水引の掛かつた鋤を手にして台地の土を一鍬起して目出度終了しましたが、当時その式には現町長の井上氏も青年神官の一員として白束帯で来加せられた事を想い、此の度の改修工事の竣功式には主催者として晴の式場に臨まれたので、恐らく感慨無量の事であつたと御察し致しました。かくて落成式は私の任期満了で退職後の昭和三年十月一日に挙行せられましたが、工事は私の在職中にはほぼ完成致し、現場に登る坂道の工事が少しばかり残つただけでありました。落成式当日は、地方としては空前の盛況でありました。福永知事は多数の県職員を派遣せられて前日から諸般の準備を手伝はせて下されたし、軍部では特に駆逐艦二隻と飛行機を当日差向けられる等、国際的工事として恥かしからざる様万事遺憾なく援助を受けました事は実に感激の外ありませんでした。当時、町村の財政は誠に貧弱なもので村長の交際費などの計上はなく、公務出張の旅費も極々

切り詰めてありましたので、記念碑建設の用務で四ケ年に亘りて幾回となく県や東京に出張致しましたが、此の諸費用は申すまでもなく私の自弁でありました。こんな状況でしたから、続いて第三期の就任を受諾しますと財政上、私は破滅を来すであろうとの懸念もありましたし、名誉職を長く独占すべきでないとの私の持論もありますので、記念碑の除幕式を置土産として第三期村長の就任を固辞致しまして閑地に避難致しました。茲に建設当時の苦心を追憶し、此の度、町当局の復旧工事に關しての御苦労に対して重ねて深く敬意を表する次第であります。西に夕影の松、東に日西墨交通発祥記念碑の其の間に抱かれたる浪静かなる綱代の海、美しい平和の御宿の町に永遠に光榮あれと祈つて筆を置きます。

(尚大正十五年十一月一日即ち定礎式の一週間前に森瀛利氏から次の様な手紙が私によせられました。)

森氏からの手紙

拝呈 只今電信にて岩和田記念碑建設に關し予定地土地其他準

備種々御配慮の結果を待て無事御解決尚土地使用に就ても所有権者に御諒解為致御趣旨に拝承仕り際際特に感謝の意を表し伴て貴兄の御力量と其至誠に重ねて敬意を表するの次第に御座候尚建碑に關して事国際的の事業にて有之然る処相手は御承知の勝手我儘の強慾連の寄合此間に処し之等の人物に依つて事を遂ぐるにつき貴公の如き熱心の人誠の人に非ざれば到底彼等を見全化し彼等を指導して結果を見るを得らるべからざる事に仕存候十分の御配慮成偏の次第なるも特に前述の状態定礎式準備は勿論事業完了に至る迄万般該事業の中堅として御奮斗被致成度切望いたし候本日掃途県庁に立寄り知事に記念碑建立に關する経過並に定礎式及今后寄付其他の計画等一式打合帰京仕候右御礼旁々御願まで如斯に御座候

十一月一日在京 草々 森 瀛利

浅野 仁兄

☆ ☆ ☆
 ○記念碑が竣工した。私達は日夜この碑を仰ぎ、祖先の偉業をしるんで、心の量としたいものである。

○絶 唱
 十五日成人式が行われたが、出席率は五十%、しかも時間を厳守した人は少なかった。もつと責任を重んじ、成人としての自覚をもつて進んでいただく事を心からお願する。

.....
 本紙が第三位に
 県下市町村広報紙コンクールが、このほど県に於て行われ、「御宿町広報」が昨年に引き続いて第三位に入選し、県知事より賞状並びに賞品を受けました。



